

日本学術会議活動状況報告

会長及び副会長報告資料

日本学術会議活動状況報告

2025 年 4 月 14 日

前々回（第 192 回）総会以降の活動状況報告

第 1 会長等出席行事

月 日	行 事 等	対 応 者
10 月 21 日（月） ～23 日（水）	日本学術会議第 192 回総会	光 石 会 長 三 枝 副 会 長 磯 副 会 長 日 比 谷 副 会 長
10 月 22 日（火）	記者会見	光 石 会 長 三 枝 副 会 長 磯 副 会 長 日 比 谷 副 会 長
10 月 30 日（水）	公開シンポジウム「サステナビリティな社会を創 るために公衆衛生はどうあるべきか」	磯 副 会 長
11 月 5 日（火）	第 9 回組織・制度ワーキング・グループ	日 比 谷 副 会 長
11 月 7 日（木）	英国マククリーン政府首席科学顧問と CSTI 有識者 議員との意見交換会（オンライン）	光 石 会 長
11 月 11 日（月）	第 7 回会員選考等ワーキング・グループ	日 比 谷 副 会 長
11 月 12 日（火）	武田科学振興財団 武田医学賞贈呈式・祝賀式	磯 副 会 長
11 月 17 日（日）	北海道地区会議学術講演会「北海道から多文化共 生を考える」	三 枝 副 会 長
11 月 20 日（水） ～23 日（土）	世界科学フォーラム（WSF）2024	日 比 谷 副 会 長
11 月 21 日（木） ～22 日（金）	アジア科学アカデミーフォーラム 2024	光 石 会 長

11月24日（日）	公開シンポジウム「「わたしたちごと」としてのケア ～ 家族だけでも、専門家だけでもなく」（オンライン）	磯 副 会 長
11月25日（月）	国際学術会議（ISC）理事による特別講演	光 石 会 長
11月28日（木）	記者会見	光 石 会 長 三 枝 副 会 長 磯 副 会 長 日 比 谷 副 会 長
11月29日（金）	第13回日本学術会議の在り方に関する有識者懇談会	光 石 会 長 磯 副 会 長 日 比 谷 副 会 長
11月30日（土）	東北地区会議学術講演会「東北地方の持続可能な食料生産のこれから～畜産業、水産業」	日 比 谷 副 会 長
11月30日（土）	中国・四国地区会議学術講演会「社会的課題と学術統合による研究と教育」	三 枝 副 会 長
11月30日（土） ～12月2日（月）	第23回アジア学術会議（オンライン）	光 石 会 長
12月2日（月）	第8回会員選考等ワーキング・グループ	日 比 谷 副 会 長
12月5日（木）	第10回組織・制度ワーキング・グループ	日 比 谷 副 会 長
12月6日（金）	中部地区会議学術講演会「性はどうやって決まる？」	日 比 谷 副 会 長
12月13日（金）	第14回日本学術会議の在り方に関する有識者懇談会	光 石 会 長 磯 副 会 長 日 比 谷 副 会 長
12月18日（水）	第15回日本学術会議の在り方に関する有識者懇談会	光 石 会 長 三 枝 副 会 長 磯 副 会 長 日 比 谷 副 会 長
12月19日（木）	第10回防災推進国民会議	光 石 会 長
12月22日（日）	日本学術会議第193回総会	光 石 会 長 三 枝 副 会 長 磯 副 会 長

		日 比 谷 副 会 長
12 月 22 日（日）	記者会見	光 石 会 長 三 枝 副 会 長 磯 副 会 長 日 比 谷 副 会 長
1 月 11 日（土）	公開シンポジウム「人口減少・人口偏在社会に求められるヘルスケア人材」（オンライン）	磯 副 会 長
1 月 22 日（水）	駐日欧州連合代表部新春祝賀会	光 石 会 長
1 月 23 日（木）	記者会見	光 石 会 長 磯 副 会 長 日 比 谷 副 会 長
1 月 24 日（金）	講演会「国際会議主催者セミナー」	光 石 会 長 日 比 谷 副 会 長
1 月 29 日（水） ～30 日（木）	第 3 回国際学術会議（ISC）総会	光 石 会 長
2 月 3 日（月）	持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2024	光 石 会 長 三 枝 副 会 長 磯 副 会 長 日 比 谷 副 会 長
2 月 5 日（水）	第 7 回日本オープンイノベーション大賞 表彰式	光 石 会 長
2 月 5 日（水）	第 41 回井上学術賞・井上研究奨励賞及び第 17 回井上リサーチアワード 贈呈式	磯 副 会 長
2 月 20 日（木）	第 4 回 ISC プラットフォーム会議（オンライン）	磯 副 会 長 日 比 谷 副 会 長
2 月 24 日（月）	日本学術会議主催学術フォーラム「成人病から生活習慣病、そして今後 ～疾病予防をさらに進めるために～」	磯 副 会 長
2 月 27 日（木）	記者会見	光 石 会 長 三 枝 副 会 長 磯 副 会 長 日 比 谷 副 会 長

3月1日（土）	公開シンポジウム「高齢者の健康と生活に与える環境の影響：学際領域の研究成果を融合」（オンライン）	磯 副 会 長
3月10日（月）	大韓民国科学技術アカデミー副会長との会談	日 比 谷 副 会 長
3月12日（水）	日本学術会議主催学術フォーラム「循環経済を活かし自然再興と調和する炭素中立社会への移行」	三 枝 副 会 長
3月18日（火） ～19日（水）	英国王立協会との第二回ネットゼロに関する科学技術対話	光 石 会 長 三 枝 副 会 長 日 比 谷 副 会 長
3月25日（火）	第71回大河内記念賞贈賞式	磯 副 会 長
3月31日（月）	記者会見	光 石 会 長 三 枝 副 会 長 磯 副 会 長 日 比 谷 副 会 長
4月8日（火）	オランダ王国大使館チューリップ鑑賞会 2025	光 石 会 長

第2 会長談話・会長メッセージ

次の会長談話を公表した。

- 1 日本学術会議会長談話「有識者懇談会最終報告及び日本学術会議第193回総会を受けて～より良い役割発揮のための改革に向けて～」
(令和6年（2024年）12月22日公表)
- 2 日本学術会議会長談話「日本学術会議の法人化に関する法案の検討状況について」
(令和7年（2025年）2月27日公表)
- 3 日本学術会議会長談話「日本学術会議法案について」
(令和7年（2025年）3月7日公表)
- 4 日本学術会議会長談話「柏原正樹先生の2025年アーベル賞受賞を祝して」
(令和7年（2025年）3月31日公表)

第3 提言等の承認

○提言

日本学術会議（科学者委員会学術体制分科会）

「第7期科学技術・イノベーション基本計画に向けての提言」

（令和6年（2024年）11月28日公表）

日本学術会議（情報学委員会）

「生成AIを受容・活用する社会の実現に向けて」

（令和7年（2025年）2月27日公表）

第4 学術フォーラム

次の日本学術会議主催学術フォーラムを開催した。

- 1 「サステナブル社会への移行における資源循環の役割」
（2024年11月22日（金）日本学術会議講堂（オンライン併用））
- 2 「成人病から生活習慣病、そして今後 ～疾病予防をさらに進めるために～」
（2025年2月24日（月・祝）日本学術会議講堂（オンライン併用））
- 3 「AI活用時代における経営教育の変革」
（2025年3月1日（土）日本学術会議講堂（オンライン併用））
- 4 「循環経済を活かし自然再興と調和する炭素中立社会への移行」
（2025年3月12日（水）日本学術会議講堂（オンライン併用））

第5 国際会議の開催

次の国際会議を開催した。

- 1 「持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2024」
（2025年2月3日（月）日本学術会議講堂（オンライン併用））

第6 日本学術会議地区会議

次の各地区会議主催講演会等を開催した。

- 1 北海道地区会議主催 学術講演会「北海道から多文化共生を考える」
（2024年11月17日（日）北海道（オンライン併用））
- 2 東北地区会議主催 学術講演会「東北地方の持続可能な食料生産のこれから～畜産業、水産業」

- (2024 年 11 月 30 日 (土) 宮城県 (オンライン併用))
- 3 中国・四国地区会議主催 学術講演会「社会的課題と学術統合による研究と教育」
(2024 年 11 月 30 日 (土) 高知県 (オンライン併用))
- 4 中部地区会議主催 学術講演会「性はどうやって決まる?」
(2024 年 12 月 6 日 (金) 岐阜県 (オンライン併用))

第 7 会員の辞職及び任命

1 会員の辞職

西原 寛会員が、令和 7 年 (2025 年) 3 月 20 日付で定年退職した。

2 会員の任命

大崎 博之連携会員、五味 文連携会員が、令和 6 年 (2024 年) 11 月 20 日付で会員に任命された。

第 8 慶弔等

1 慶事

- ・令和 6 年度文化勲章受章者 令和 6 年 (2024 年) 11 月 3 日発令
中西 準子 (元連携会員 (第 20-21 期))
廣川 信隆 (元会員 (第 20-21 期)、元連携会員 (第 22-25 期))

- ・令和 6 年秋の叙勲受章者 令和 6 年 (2024 年) 11 月 3 日発令

【瑞宝重光章】

桐野 高明 (元会員 (第 20-21 期)、元連携会員 (第 22-23 期))

【瑞宝中綬章】

赤平 昌文 (元連携会員 (第 20-23 期))

今井 秀樹 (元会員 (第 20-21 期)、元連携会員 (第 22-23 期))

河田 ^{よしあき} 恵昭 (元連携会員 (第 20-21 期))

北岡 良雄 (元連携会員 (第 20-22 期))

^{げじょう} 下條 文武 (元連携会員 (第 20-21 期))

坂村 健 (元会員 (第 20-22 期)、元連携会員 (第 23-24 期))

澤木 宣彦 (元連携会員 (第 22-25 期))

^{じつなり} 實成 文彦 (元連携会員 (第 20-23 期))

庄司 正弘（元連携会員（第20-21期））
末廣 昭（元連携会員（第20-22期））
高橋 眞一（元会員（第20-21期）、元連携会員（第22-23期））
鎮西^{ちんぜい} 康雄（元連携会員（第20-21期））
中村 耕三（元連携会員（第20-23期））
林 春男（連携会員（第20-23期、第25-26期））
高山 憲之（元連携会員（第20-23期））
藤木 幸夫（元連携会員（第20-23期））
渡辺 政廣（元連携会員（第20-23期））

・ 令和6年秋の褒章受章者 令和6年（2024年）11月3日発令

【紫綬褒章】

石谷 治（連携会員（第25-26期））
西田 眞也（元会員（第24-25期）、元連携会員（第20-23期））
中畑 雅行（連携会員（第22-26期））
宮地 充子（元会員（第24-25期）、元連携会員（第21-23期））
萩原 篤志（連携会員（第23-26期））

・ 日本学士院新会員 令和6年（2024年）12月12日選定

田中 成明（元会員（第20-21期）、元連携会員（第22-23期））
樋口 美雄（元会員（第20-22期）、元連携会員（第23-24期））
平 朝彦（元会員（第20-21期）、元連携会員（第22-23期））
上田 龍三（元連携会員（第20-21期））

・ 日本学術振興会賞 令和6年（2024年）12月19日公表

坂井 南美（連携会員（第25-26期））
安田 仁奈（連携会員（第24-26期））

・ 日本学士院学術奨励賞 令和7年（2025年）1月14日公表

坂井 南美（連携会員（第25-26期））

・みどりの学術賞 令和7年（2025年）3月7日公表

森本 幸裕（元連携会員（第20-21期））

経塚 淳子（元会員（第24-25期）、連携会員（第26-27期））

・アーベル賞 令和7年（2025年）3月26日公表

柏原 正樹（元会員（第20-21期）、元連携会員（第22-24期））

2 弔事

・三間 圀興（みま くにおき） 2025年1月5日 享年79歳

元連携会員（第20-21期、22-23期、24-25期）

大阪大学名誉教授

・中田 修（なかた おさむ） 2025年1月21日 享年102歳

元会員（第15期）

東京医科歯科大学名誉教授

第9 その他

事務局人事異動

管理課長

旧：大久保 敦

新：角田 哲也

（令和7年（2025年）4月1日付）



2024年10月から2025年4月の 活動報告

第194回総会
第26期日本学術会議会長
光石衛

- 日本学術会議の在り方に関する検討状況について
- 日本学術会議第26期アクションプランについて
- 主な国際活動
- 会長談話

2023年

8月 日本学術会議の在り方に関する有識者懇談会開催

10月 第26期開始

日本学術会議第189回総会

12月9日 日本学術会議第190回総会

声明「日本学術会議のより良い役割発揮に向けた基本的考え方ー自由な発想を活かした、しなやかな発展のための協議に向けてー」

12月21日 日本学術会議の在り方に関する有識者懇談会「中間報告」

12月22日 「日本学術会議の法人化に向けて」(内閣府特命担当大臣決定)

会長メッセージ「日本学術会議の在り方に関する有識者懇談会「中間報告」及び「日本学術会議の法人化に向けて」について

2024年

4月～ 内閣府「組織・制度ワーキング・グループ」及び「会員選考等ワーキング・グループ」開催

4月22・23日 日本学術会議第191回総会

声明「政府決定「日本学術会議の法人化に向けて(令和5年12月22日)」に対する懸念について～国民と世界に貢献するナショナル・アカデミーとして～」

6月7日 日本学術会議の在り方に関する有識者懇談会(第11回)

－「より良い役割発揮のための制度的条件」(日本学術会議幹事会)

7月29日 日本学術会議の在り方に関する有識者懇談会(第12回)

－「法人化をめぐる議論に対する日本学術会議の懸念」(日本学術会議会長)

2024年

10月21・22日 日本学術会議第192回総会

11月29日 日本学術会議の在り方に関する有識者懇談会(第13回)

－「より良い役割発揮のためのナショナルアカデミーの設計コンセプトについて」(日本学術会議幹事会)

－「日本学術会議の会員選考に関する方針」(日本学術会議幹事会)

12月13日 日本学術会議の在り方に関する有識者懇談会(第14回)

－「第7期科学技術・イノベーション基本計画に向けての提言」の説明

12月18日 日本学術会議の在り方に関する有識者懇談会(第15回)

12月20日 日本学術会議の在り方に関する有識者懇談会最終報告書公表

「世界最高のナショナルアカデミーを目指して」

12月22日 日本学術会議第193回総会(臨時総会)

会長談話

「有識者懇談会最終報告及び日本学術会議第193回総会を受けて～より良い役割発揮のための改革に向けて～」

2025年

- 2月13日 幹事会(非公開審議) 内閣府より法案の検討状況について説明・質疑
- 2月27日 会長談話「日本学術会議の法人化に関する法案の検討状況について」
- 3月7日 「日本学術会議法案」閣議決定
会長談話「日本学術会議法案について」
- 3月13日 「日本学術会議法案の閣議決定に寄せて」
(日本学術会議の在り方に関する有識者懇談会委員一同)
- 3月24日 「日本学術会議法案に関する懸念事項について」(幹事会から内閣府へ送付)
- 4月8日 「日本学術会議法案に関する見解について」(内閣府から幹事会へ回答)
- 4月14・15日 第194回総会**

- 日本学術会議のより良い役割発揮に向けて、特に今期に重点的に進めていく事項
 - 幹事会構成員のほか、産業界、若手アカデミー、広報委員会などの会員・連携会員を加えた「第26期アクションプラン企画WG」(企画WG)を中心に、委員会・分科会等と協働して取り組む
1. タイムリー、スピーディな意思の表出と助言機能の強化
 2. 学術の発展のための各種学術関係機関との密接なコミュニケーションとハブとしての活動強化
 3. ナショナルアカデミーとしての国際的プレゼンスの向上
 4. 産業界、NGO/NPOをはじめとする多様な団体、国民とのコミュニケーションの促進
 5. 学術を核とした地方活性化の促進
 6. 情報発信機能の強化
 7. 事務局機能の拡充を含む企画・執行体制の強化

1. タイムリー、スピーディな意思の表出と助言機能の強化

(具体的な取組)

✓課題解決型の助言機能強化

⇒速やかな意思の表出に向けて取り組む課題

・「第7期科学技術・イノベーション基本計画に向けての提言」(2024年11月公表)

・提言「生成AIを受容・活用する社会の実現に向けて」(2025年2月公表)

✓査読プロセスの改革による迅速化・見える化

✓システムの活用を含む発出した提言等の確実なフォローアップ及び横展開

日本学術会議の意思の表出と科学的助言機能の強化

速やかな意思の表出に向けて取り組む課題

科学技術・イノベーション基本計画

科学者委員会 学術体制分科会

➤ 第7期科学技術・イノベーション基本計画に向けての提言

2024年11月公表

食品制度

食料科学委員会・農学委員会・基礎医学委員会・薬学委員会・健康・生活科学委員会関係分科会合同※

➤ 国民の健康維持・増進に資する食品制度に関する提案(仮題)

2025年度中

※食料科学委員会・農学委員会合同食の安全分科会、食料科学委員会・基礎医学委員会合同獣医学分科会、食料科学委員会・農学委員会合同農芸化学分科会、薬学委員会・食料科学委員会・基礎医学委員会合同毒性学分科会、健康・生活科学委員会パブリックヘルス科学分科会

生成AI

情報学委員会

➤ 生成AIを受容・活用する社会の実現に向けて

2025年2月公表

量子技術

情報学委員会

➤ 量子未来社会の健全な発展へ向けた課題と展望(仮題)

2025年夏頃予定

カーボンニュートラル

循環経済と自然再興を活かした炭素中立社会への移行に関する検討委員会

➤ 気候危機に対処するための産官学民の総力の結集

ー循環経済を活かし自然再興と調和する炭素中立社会への転換ー(仮題)

2025年夏頃予定

研究力強化

我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会

➤ 日本の研究力の国際的状況、学術政策の効果の因果分析、今後の方策などを検討予定(意思の表出の名称等は未定)

2025年秋頃予定

学術を核とした地方活性化

学術を核とした地方活性化の促進に関する検討委員会

➤ 地域に根差す学術を核とした地方活性化の好事例を収集し広域で促進する道筋を検討予定(意思の表出の名称等は未定)

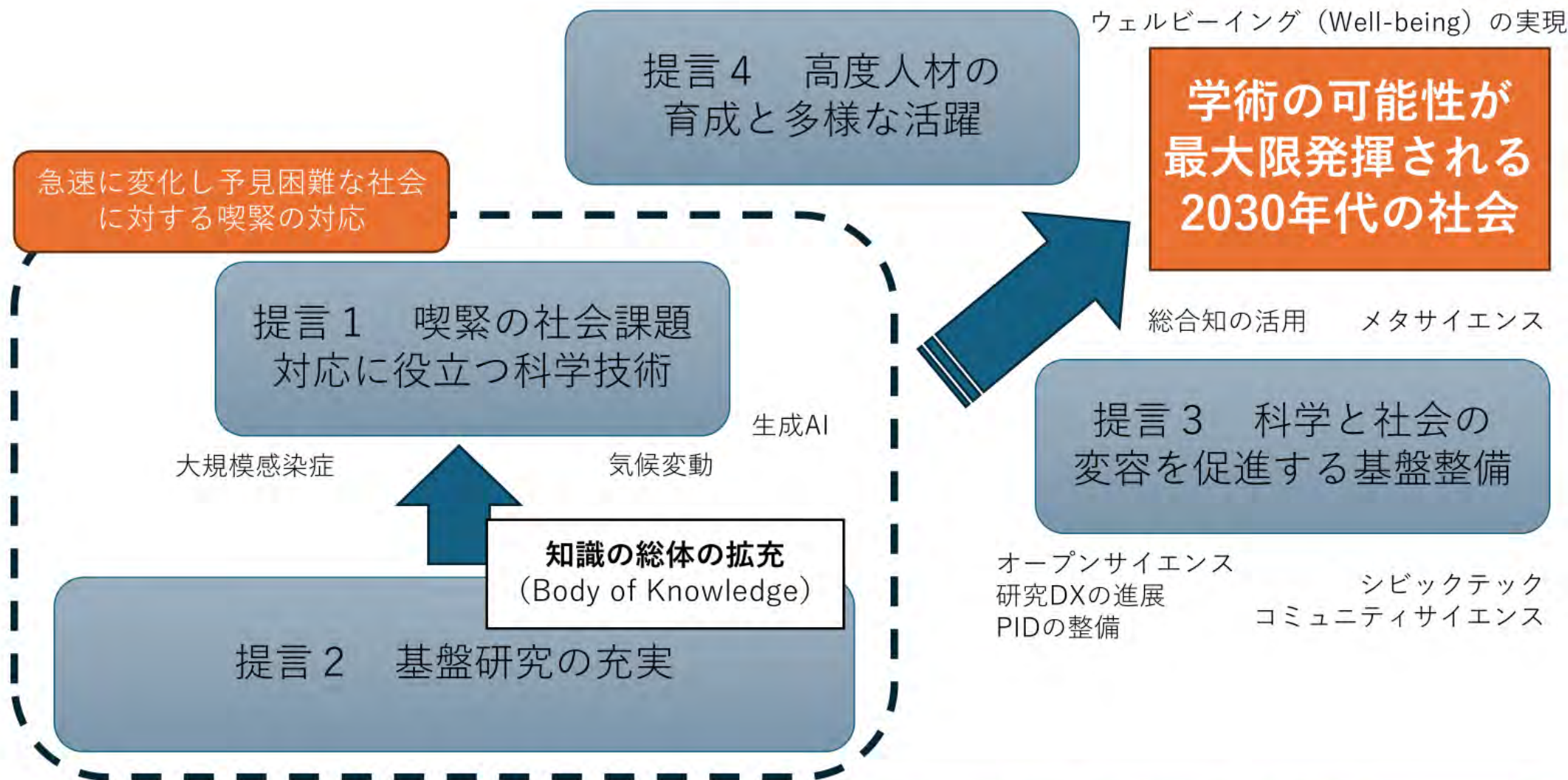
2025年秋頃予定

➤ その他の取組

防災・減災

地方学術会議委員会【日本学術会議 in 石川 2025年8月に開催準備中】 防災減災学術連携委員会も協力

第7期科学技術・イノベーション基本計画に向けての提言



提言1 大規模感染症や気候変動、超少子高齢社会などの喫緊の課題及び生成AIの発展を含むデータ科学の進展がもたらす社会の急速な変革に対応する包摂的な科学技術・イノベーションを可能にする制度や取組の実現

1. 予見困難な大規模災害や感染症拡大等に対し迅速に調査研究を開始する仕組みと、災害や感染などの有事にも対応し、社会のレジリエンスを担保できる体制の構築
2. 循環経済を活かし自然再興と調和する炭素中立社会への移行: 持続可能で回復力のある社会の構築
3. 生成AIの先も見越したAI研究における競争力の確保と、AIを安心・安全に社会実装できる仕組み作り、及び法制度等における国際的通用性の確保
4. ストラテジックインテリジェンスに基づく政策立案の推進
5. 研究を推進・発展させるための倫理的・法的・社会的課題への対応強化
6. シビックテック、コミュニティサイエンスの活用による産学官民の連携の強化
7. 研究活動のオープン化・国際化が進む中での研究インテグリティの適切な確保

提言2 喫緊の課題解決に資する研究に加え、基礎的・伝統的な研究分野を含む広範、かつ、多様な研究分野を支援し、知識や技術の継続的な蓄積による研究力強化

1. 研究力強化に資する研究環境改善のための総合的な政策の強化
2. 社会的影響度を考慮し、定量評価偏重を避ける研究評価への移行
3. 学術的・社会的インパクトのある成果を創出するための研究資金配分の検討
4. 人口減少、超高齢社会を踏まえた地域の学術振興
5. 公正な研究活動を一層推進するための基盤整備

提言3 公共財としての知識・データの蓄積と開放を促し、データ科学の更なる展開による新しい科学とイノベーションへの対応

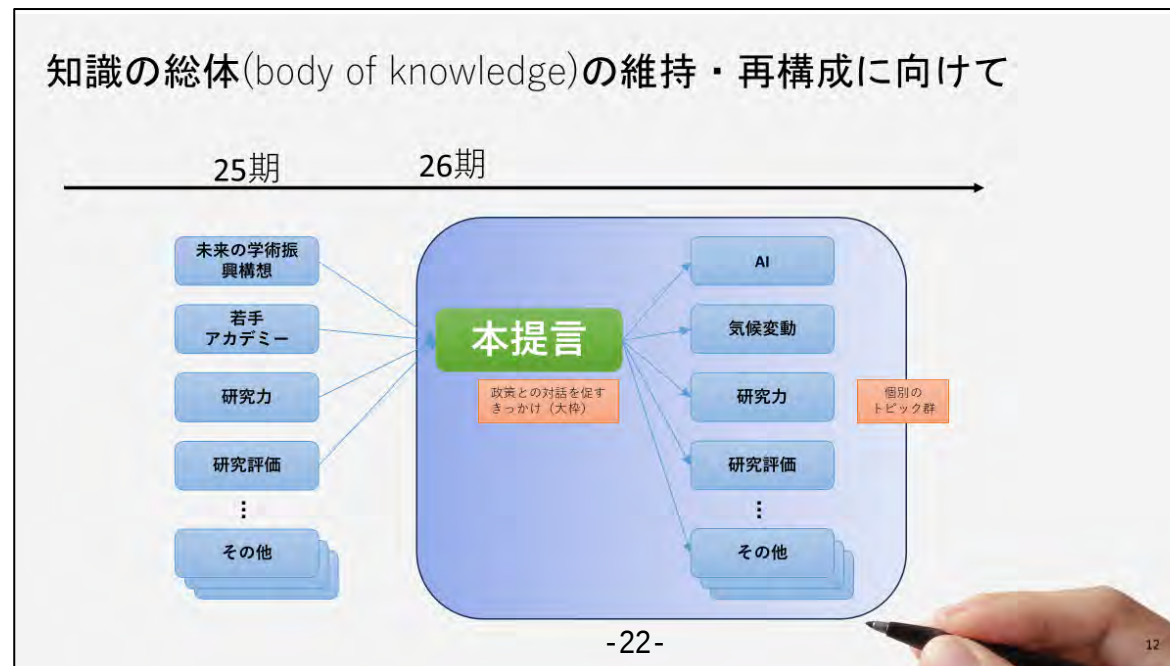
1. 論文、研究データを含む知識基盤の整備・強化と活用
2. 永久識別子に関する省庁横断の国家戦略策定による日本の研究の見える化
3. 産学官民などのセクターを問わないデータ流通と活用
4. 将来の科学を見通すメタサイエンスやサイエンスオブサイエンスに関する研究の強化

提言4 多様なキャリアをもつ高度人材の育成をあらゆる領域で支援するとともに、そういった人材が様々な場所で専門性を発揮できる仕組みの強化

1. 多様化・深刻化する社会課題に対応できる人材の育成
2. 大学院教育の魅力と優位性の向上による博士人材育成環境の充実
3. 分野の壁を越え国際的リーダーシップを発揮するための流動性の改善

＜今後の展望＞

一方、第26期日本学術会議においては、生成AIや気候変動問題等の喫緊の課題を中心に提言等の準備が進められ、本提言において一部それらを予告し連動する形となっている。社会における情報の統合利用や複合利用が加速していることを踏まえ、今後、本提言及び今後の提言等をネットワーク化したパッケージとして見立て、日本学術会議の包括的なメッセージと捉えていただくことを期待する。



提言「生成AIを受容・活用する社会の実現に向けて」(概要)



2. 学術の発展のための各種学術関係機関との密接なコミュニケーションとハブとしての活動強化

(具体的な取組)

✓「未来の学術振興構想」の浸透・議論のためのフォーラムの開催及び学術研究振興分科会における更なる検討

⇒「未来の学術振興構想(2023年版)」の改訂に向けて

「学術の中長期研究戦略」の追加募集を開始(2025年4月1日)

✓研究力強化に向けた検討の推進

⇒「我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会」設置(2024年8月30日)

✓学協会との更なる連携の強化に向けた方策の検討

⇒「理学・工学系学協会連絡協議会」の継続的な開催

「生命科学系の学協会連合体との円卓会議」の新設 等

2. 学術の発展のための各種学術関係機関との密接なコミュニケーションとハブとしての活動強化

「未来の学術振興構想」

- 提言「未来の学術振興構想(2023年版)」を策定(2023年9月25日)
 - 今後20~30年頃まで先を見据え
 - 学術振興の複数の「グランドビジョン」と
 - その実現の観点から必要となる「学術の中長期研究戦略」から構成
- 「日本学術会議のより良い役割発揮に向けて」を踏まえた科学的助言機能の強化
 - 中長期的視点、俯瞰的視野、分野横断的な検討を重視
- 科学者コミュニティからの「学術の中長期研究戦略」の提案を公募
 - 科学者コミュニティから自由な発想に基づくボトムアップを重視し、
 - 研究・教育機関、学協会、日本学術会議会員・連携会員及び若手研究者から広く募集
 - 複数の研究コミュニティが連携した複合的な提案、
 - 予算の下限を設けず人文・社会科学分野が中核的に関わる提案について積極的に掘り起こし
- 「未来の学術振興構想(2023年版)」の発展・充実のための改訂に向けて、研究・教育機関、学協会、日本学術会議会員・連携会員及び若手研究者等に対して「学術の中長期研究戦略」の追加募集を開始



3. ナショナルアカデミーとしての国際的プレゼンスの向上

(具体的な取組)

✓国際アドバイザーボードの開催

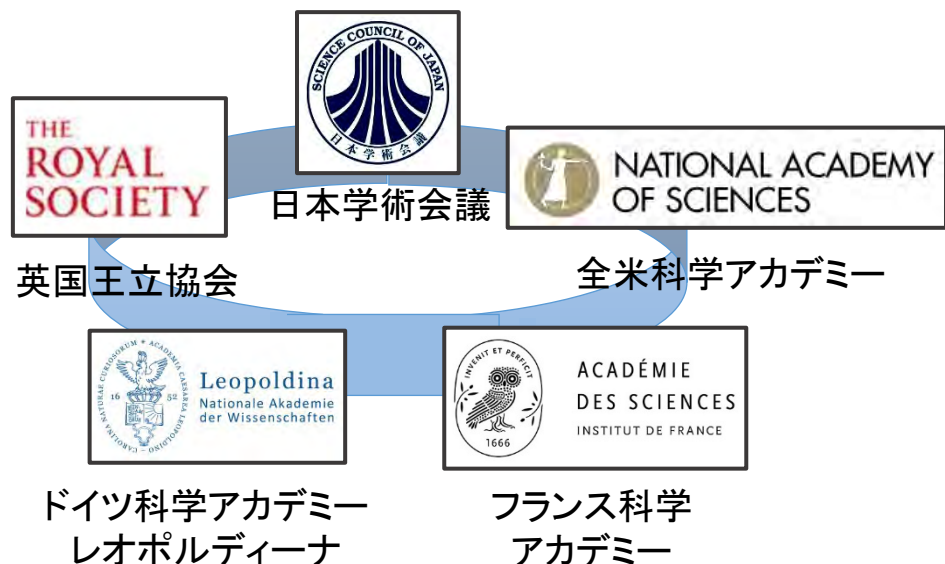
⇒初会合を開催(2024年10月7日)、次回開催に向け検討を開始

✓世界のリーディングアカデミーとの連携、アジア学術会議を軸としたアジア地域におけるリーダーシップの発揮

✓主要国若手アカデミー間の国際連携活動等を通じた次世代育成

3. ナショナルアカデミーとしての国際的プレゼンスの向上

国際アドバイザリーボード



- 主要4ヶ国(英・独・仏・米)のナショナルアカデミーと、連携の強化及び日本学術会議の国際活動への助言等を目的として開催
- 初回会合では、連携強化の方策及び日学のアクションプラン等について議論

<開催概要>

日時 : 2024年10月7日(月)15:00-16:30
 場所 : 京都国際会館
 参加者 : 光石会長、日比谷副会長、磯副会長
 英 副会長、仏 前会長
 ※独及び米国は欠席



会議風景
 (京都国際会館にて撮影)

4. 産業界、NGO/NPOをはじめとする多様な団体、国民とのコミュニケーションの促進 (具体的な取組)

✓産業界からの会員・連携会員を核とした産業界との対話の促進

⇒産業界に所属する会員と企画WGの意見交換を実施

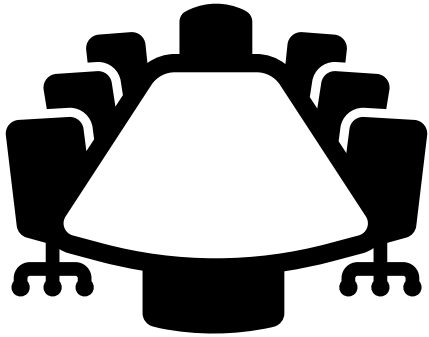
⇒COCNとの意見交換を実施(2024年10月)、COCNとの連携に向けて企画WG
において具体的な連携の場、連携のテーマなどを検討

✓国民とのコミュニケーションの促進の具体化

⇒こども霞が関見学デーの実施

4. 産業界、NGO/NPOをはじめとする多様な団体、国民とのコミュニケーションの促進

産業界とのコミュニケーション推進



- 産業界に所属する会員と企画WGで意見交換を実施
 - COCN(産業競争力懇談会)と日本学術会議会長・副会長等との意見交換を実施
 - 産業界の視点から学術会議へ期待することなどをテーマ
- ⇒ 産業界等とのコミュニケーションにより得られた成果を日本学術会議の活動へ反映

こども霞が関見学デーの実施



にほん がくじゅつ かいぎ
日本学術会議
かすみ せき けんがく
こども霞が関見学デー

令和6年 8月7日(水) 8月8日(木) 11:00-16:00 参加費無料

<会場> **日本学術会議庁舎**
東京都港区六本木7-22-34
※東京メトロ千代田線「乃木坂」駅 5番出口
(青山公園方面) から徒歩1分
<https://www.scj.go.jp/kodomo/index.html>

科学のせかいをのぞいてみよう!

プログラム

① **せんせいといっしょに自由研究〜カガクからのぞく家族と宇宙〜**
日本学術会議の先生と一緒に動物や宇宙、法律の不思議についてお話をしよう!

【予定プログラム】(※各回定員30名)
◆8月7日(水) 13:30~14:30
いろいろな生き物のいろいろな子育て・家族と法律〜紙状を書いてみよう〜
◆8月8日(木) 13:30~14:30
宇宙を探索してみよう・宇宙法の話〜宇宙環境の保護と法律

事前申込制 申し込みはこちらから→

② **こども学術会議〜自分のアイデアを発表してみよう〜**
日本学術会議の講堂で、自分のアイデアをスクリーンに映して発表してみよう!

予約不要

③ **意外と難しい! 一番の「つり名人」はだれだ?!**
「日」「本」「学」「術」「会」「議」と書かれたお魚をみんなは釣れるかな?

予約不要

- こども(小中学生・幼児等)に向けて、日本学術会議を広く知ってもらう機会を設定(初の試み)
- 「こども霞が関見学デー」にあわせて実施
- 生き物や宇宙をテーマにしたこどもにもわかりやすい講演、ミニゲームなどのプログラムを企画

5. 学術を核とした地方活性化の促進

(具体的な取組)

✓地方学術会議等を活用した地方活性化に関する取組の検討

⇒「学術を核とした地方活性化の促進に関する検討委員会」設置(2025年1月)
2025年秋頃に意思の表出を行うことを目標に活動開始

6. 情報発信機能の強化

(具体的な取組)

✓国民・社会を意識したウェブページの充実

⇒会長メッセージ動画の掲載等

✓プロフェッショナル人材等の活用

⇒日本学術会議アドバイザーとしてプロフェッショナル人材を委嘱

✓若年層への情報発信に向けた検討

6. 情報発信機能の強化

日本学術会議Webサイトの充実

- 国民に向けた、わかりやすい動画を順次作成・公開
 - 第1弾として会長メッセージ動画を公開(今後の動画についても検討中)
- テーマ別に知りたい情報を見やすくした「特集サイト」を順次作成・公開(予定)

会長メッセージ動画



特集サイト(イメージ)

生成AI

カーボン
ニュートラル

防災・減災

⋮

生成AI

生成AIが社会問題化

公開シンポジウム「生成AIの課題と今後」

提言について情報学委員会にて検討

...

プロフェッショナル人材等の活用

- 広報・コミュニケーションの専門家・プロフェッショナル人材の更なる活用 等
 - 日本学術会議アドバイザーとしてプロフェッショナル人材を委嘱(2022.9～)。広報委員会等の広報に関する検討や広報コンテンツ作成への参画により、広報機能をさらに充実・強化

7. 事務局機能の拡充を含む企画・執行体制の強化

(具体的な取組)

✓企画WGによるアクションプランの推進体制の強化

✓アクションプランを踏まえた事務局体制の強化

⇒会長・副会長のリーダーシップをより発揮するための方策の検討

⇒若手専門人材の活用による事務局機能の強化 等

日本学術会議のより良い役割発揮に向けて

日本学術会議第26期アクションプラン

1 国際活動の強化

3. ナショナルアカデミーとしての国際的プレゼンスの向上

2 科学的助言機能の強化

1. タイムリー、スピーディな意思の表出と助言機能の強化

3 対話を通じた情報発信力の強化

6. 情報発信機能の強化

2. 学術の発展のための各種学術関係機関との密接なコミュニケーションとハブとしての活動強化

4. 産業界、NGO/NPOをはじめとする多様な団体、国民とのコミュニケーションの促進

5. 学術を核とした地方活性化の促進

4 会員選考プロセスの透明性の向上

5 事務局機能の強化

7. 事務局機能の拡充を含む企画・執行体制の強化

主な国際活動

2024年

- | | |
|--------------|--|
| 11月 7日 | 英国マククリーン政府首席科学顧問とCSTI有識者議員との意見交換会
(オンライン) |
| 11月20日～23日 | 世界科学フォーラム (WSF) 2024 |
| 11月21日～22日 | アジア科学アカデミーフォーラム2024 |
| 11月30日～12月2日 | 第23回アジア学術会議(オンライン) |

2025年

- | | |
|-----------|------------------------------|
| 1月29日～30日 | 第3回国際学術会議(ISC)総会 |
| 2月 3日 | 持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2024 |
| 2月20日 | 第4回ISCプラットフォーム会議(オンライン) |
| 3月10日 | 大韓民国科学技術アカデミー副会長との会談 |
| 3月18日～19日 | 英国王立協会との第2回ネットゼロに関する科学技術対話 |

＜会長談話＞

- 「有識者懇談会最終報告及び日本学術会議第193回総会を受けて～より良い役割発揮のための改革に向けて～」(令和6(2024)年12月22日)
- 「日本学術会議の法人化に関する法案の検討状況について」(令和7(2025)年2月27日)
- 「日本学術会議法案について」(令和7(2025)年3月7日)
- 「柏原正樹先生の2025年アーベル賞受賞を祝して」(令和7(2025)年3月31日)

組織運営・科学者間の連携 報告

(2024年10月～2025年4月)

- 1 科学者委員会・同分科会
- 2 地区会議
- 3 地方学術会議
- 4 財務委員会

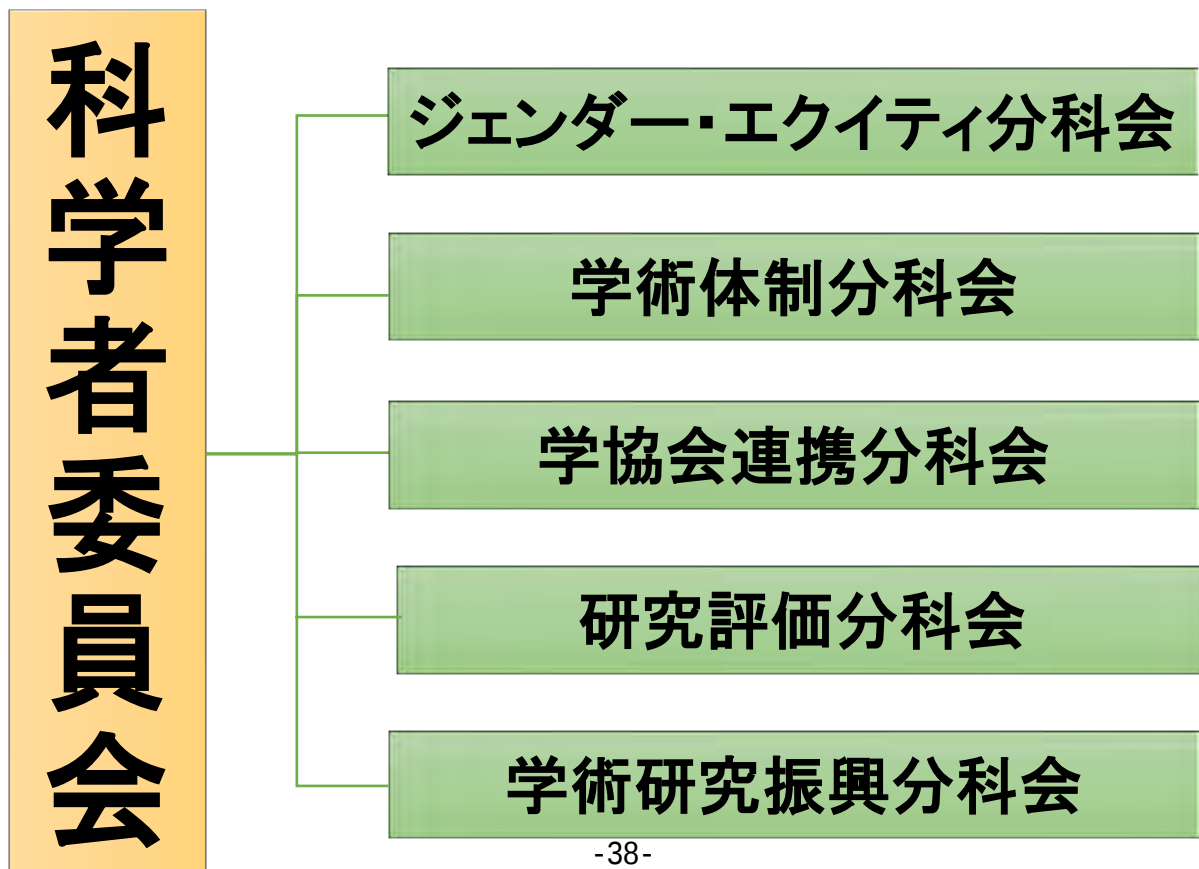
日本学術会議第194回総会(2025年4月14日)

担当副会長 三枝 信子

1 科学者委員会・同分科会

科学者委員会（委員長：三枝 信子）

- 科学者コミュニティに関する全体的課題の検討
- 分科会の課題の調整



1 科学者委員会・同分科会

(1) ジェンダー・エクイティ分科会（委員長：高橋 裕子）

● 科学に関する男女共同参画の推進に関する審議

女性活躍促進目標(30%)の
達成に向けて

- ・大学・研究機関や学協会の実情の調査を基に、改善に向けて検討

ジェンダー関連分科会の
25期までの活動を総括

- ・共通課題を整理し、今後の課題を明確化

学術における
ダイバーシティの推進

- ・現状を調査・分析し、今後の課題を整理

上記の取組によって得られた
知見や改善に向けた課題の
周知・普及

- ・今期中に策定が予定されている第6次男女共同参画基本計画に対する有益な提言の発出
 - 2024年12月22日(日)に公開シンポジウム「第6次男女共同参画基本計画に向けた日本学術会議の期待」を開催
- ・併せて、今期中に包括的反差別法の制定に向けた提言を発出予定

1 科学者委員会・同分科会

(2) 学術体制分科会（委員長：林 和弘）

● 学術の制度・振興等に関する諸問題の審議

第7期科学技術・イノベーション基本計画に向けた検討

- ・ 第7期科学技術・イノベーション基本計画（2026年3月までに閣議決定予定）に向けた検討を行い、**2024年11月に提言「第7期科学技術・イノベーション基本計画に向けての提言」を公表**
- **総合科学技術・イノベーション会議基本計画専門調査会（第2回）（2025年1月17日開催）等において、光石会長及び林委員長からプレゼン**

その他

- ・ 学術体制・学術法制の国際比較調査・課題の整理
- ・ 中長期的観点から、学術を学際的・文理融合的に推進するための在り方の検討

1 科学者委員会・同分科会

(3) 学協会連携分科会

- 学協会と日本学術会議の連携推進
- 学協会の機能強化に関する諸課題の審議

連携

- ・ 日本学術会議と学協会の新たな連携体制づくりの検討

規程見直し

- ・ 学協会、学会連合、連携体等のあり方を検討するとともに、協力学術研究団体の規定の見直しを検討

■協力学術研究団体

2,194団体(2025年3月現在)※第26期 63団体承認

1 科学者委員会・同分科会

(4) 研究評価分科会（委員長：尾崎 紀夫）

● 研究評価のあり方についての全体的検討

研究評価の あり方

- 関連する過去の提言等のフォローアップ
- 国内外の研究評価のあり方についての調査
- 分野別研究評価のあり方についての検討
- 若手支援としての研究評価のあり方についての検討

➤ 本年秋を目途に「研究の活性化へ向けた研究評価の具体的な改善方策（仮称）」として意思の表出を取りまとめ、公表する予定。

1 科学者委員会・同分科会

(5) 学術研究振興分科会(委員長: 森田 一樹)

● 重要な学術研究の計画に関する検討に係る審議

➤ 総会①4月14日(月)午前
に報告予定

提言「未来の学術振興構想(2023年版)」
の周知・普及

- ・ 第25期提言「未来の学術振興構想(2023年版)」の周知・普及を行い、国民等の思いやニーズ・関心を把握するための双方向コミュニケーションの充実を図る。

➤ 2024年10月4日(金)に学術フォーラム「未来の学術振興構想 ― 実現に向けて ―」を開催

未来の学術振興構想の更新の検討

- ・ 19の「グランドビジョン」の実現のために必要な「学術の中長期研究戦略」を追加募集するとともに、「未来の学術振興構想」に掲載した「学術の中長期研究戦略」の「学術研究構想」の進展等に伴う改訂を実施し、それらを踏まえての「未来の学術振興構想」の改訂を実施

➤ 「未来の学術振興構想」の改訂に向けた「学術の中長期研究戦略」の公募等について

■ 公募期間: 2025年4月1日(火)～同年10月1日(水)

■ 公募説明会: 2025年4月24日(木) 16:00～17:00@オンライン

1 科学者委員会・同分科会

■開催状況

科学者委員会

第11回～第14回

(メール審議)

- ・協力学術研究団体の承認
- ・後援名義の承認

(1) ジェンダー・エクイティ分科会

◇第7回(2025.1.26)

第8回(2025.2.21)

第9回(2025.4.9)

- ・第6次男女共同参画基本計画及び包括的反差別法に関する提言の検討等

(2) 学術体制分科会

◇特になし(提言のフォローアップ活動として、CSTI基本計画専門調査会等においてプレゼン)

(3) 学協会連携分科会

◇特になし
(学協会との連携体制について検討)

(4) 研究評価分科会

◇第4回(2025.1.21)

- ・研究評価に関する意思の表出について検討等

(5) 学術研究振興分科会

◇第3回(2024.11.28)

- ・学術フォーラムの総括、提言のフォローアップ等

◇第4回(2025.1.17)

- ・「未来の学術振興構想」の改訂方針、個別論点の検討等

◇第5回(2025.3.18)

- ・改訂方針案及び公募要領案、意思の表出申出書等

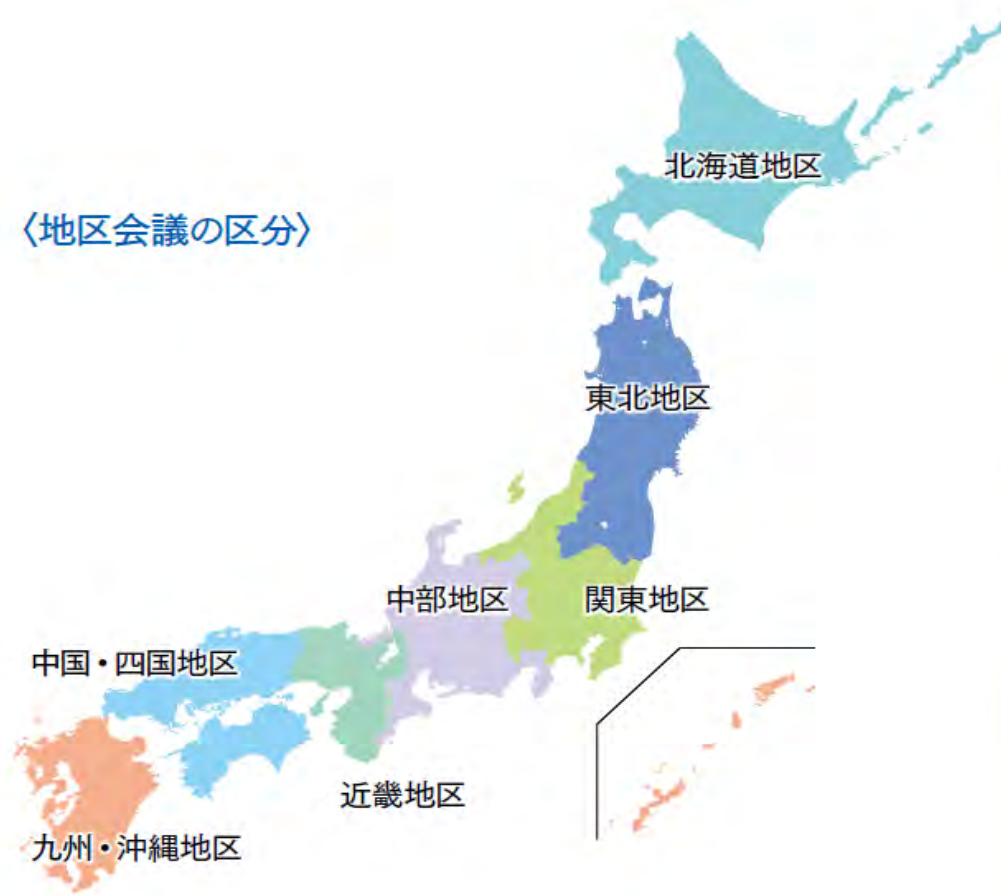
2 地区会議

地区会議

- 日本学術会議と科学者間の意思疎通
 - ・ 地区の科学者等への日本学術会議の諸活動の周知
 - ・ 日本学術会議に対する意見、要望の汲み上げ
- 地域社会の学術の振興
 - ・ 科学者との懇談会や学術講演会等の開催
 - ・ 地区会議ニュース等の発行
 - ・ 地域社会の学術の振興に資する事業の推進

◆ 地方連絡委員会議の開催(2025. 3. 17)

各地区会議の活動の活性化、学術会議や各地区との連携強化の観点から地方連絡委員（各地区の関係大学事務局職員に委嘱）に参加いただき、初めて地方連絡委員会議を開催し、活動状況の情報共有や課題解決に向けた意見交換などを行った。



2 地区会議

◆ 学術講演会 (2024年6月～2024年12月)

開催日	地区	開催形式	演題	挨拶	参加者	備考
6月14日 (金)	中部	富山大学 (ハイブリッド開催)	「未病からWell-beingを考える」	三枝副会長	131名	富山大学と共催
9月7日 (土)	近畿	京都大学 (ハイブリッド開催)	「市民とともにつくる学術知：シチズンサイエンス／シビックテックの挑戦」	磯副会長	260名	京都大学と共催
10月9日 (水)	九州 沖縄	鹿児島大学 (ハイブリッド開催)	「世界遺産・奄美群島固有の生態系と文化的多様性～次代へつなぐアマミの宝～」	日比谷副会長	202名	鹿児島大学と共催
11月17日 (日)	北海道	北海道大学 (ハイブリッド開催)	「北海道から多文化共生を考える」	三枝副会長	220名	北海道大学と共催
11月30日 (土)	東北	東北大学 (ハイブリッド開催)	「東北地方の持続可能な食料生産のこれから～畜産業、水産業」	日比谷副会長	200名	東北大学と共催
11月30日 (土)	中国 四国	高知工科大学 (ハイブリッド開催)	「社会的課題と学術統合による研究と教育」	三枝副会長	90名	高知工科大学と共催
12月6日 (金)	中部	岐阜大学 (ハイブリッド開催)	「性はどのように決まる？」	日比谷副会長	217名	岐阜大学と共催

◆ 地区会議ニュース

(2024年9月発行) 中部地区(No156)

(2025年3月発行) 北海道地区(No55)、東北地区(No39)、中部地区(No157)、近畿地区(No34)、中国・四国地区(No56)、九州・沖縄地区(No123)

※各地区の会員・連携会員の他、教育機関・研究機関等に配布するとともに、学術会議ホームページにも掲載

3 地方学術会議

●地方創生に関する取組強化のため、2018年度(平成30年度)から開催

◆開催状況(第24期～第25期)

- 「日本学術会議 in京都」(2018.12.22)
共催: 京都産業大学、京都府立大学、京都大学
- 「日本学術会議 in北海道」(2019.2.16)
共催: 北海道大学
- 「日本学術会議 in富山」(2019.6.28)
共催: 富山大学
- 「日本学術会議 in山口」(2020.9.27)
共催: 山口大学
- 「日本学術会議 in福岡」(2022.2.23)
共催: 九州大学
- 「日本学術会議 in宮城」(2022.11.5)
共催: 東北大学
- 「日本学術会議 inつくば」(2023.2.15)
共催: 国立研究開発法人 防災科学技術研究所、
同 国立環境研究所

◆今後の開催予定

- 「日本学術会議 in石川」(2025.8.2)
共催: 金沢大学

<テーマ>

大災害からの復興と持続的社会のモデルを目指して
～半島地域からの問題提起(仮題)

➤ 第26期地方学術会議委員会

- 地方学術会議に関する事項について審議

開催状況

- ◇第1回 (2024.3.28)
役員の選出、地方学術会議の今後の進め方について
- ◇第2回 (2024.10.28)
地方学術会議の今後の進め方について

4 財務委員会

財務委員会（委員長：三枝 信子）

●2025年度 審議等予算の配分

2025年度審議等にかかる手当・旅費について、総会や各種委員会等の活動状況、時勢等を十分踏まえ配分を行った。

●2025年度 審議等予算の執行

配分した予算についてはこれまでと同様、各部等に予算執行計画を委ねつつ、事務局との間でも緊密な連携を図る。また、財務委員会においても予算執行状況を注視し、適時適切なタイミングで機動的・弾力的な予算執行を行う。

日本学術会議総会報告

政府、社会及び国民等との関係

(2024.10～2025.4)

- 1 科学と社会委員会
- 2 課題別委員会
- 3 広報委員会
- 4 科学的助言等対応委員会

2025年4月14日
担当副会長 磯 博康

1. 科学と社会委員会

(委員長:磯 博康)

国民生活に科学を反映浸透させ、科学に対する理解の増進を図る。

■サイエンスカフェの実施状況(2024.10.1～2025.3.31 計3回)

※2024年4月～9月に青森、滋賀、東京で計3回実施(第192回総会において報告済)

開催日	テーマ	地域	開催場所
2024年11月24日	徳島発のバイオテクノロジー：阿波晩茶とコオロギの魅力	徳島	徳島大学フューチャーセンター
2024年12月14日	データサイエンスで政策の質を向上させる	京都	同志社大学新町キャンパス臨光館204教室
2025年 3 月13日	火星の月から探る水惑星誕生の謎－火星衛星探査MMXの挑戦	北海道	三省堂書店札幌店ブックス&カフェUCC

2. 課題別委員会

社会が抱えるその時々課題のうち特に重要な課題について日本学術会議において審議し、科学者コミュニティを集約した適切な意見を時宜に応じて提言する。

	委員会名	設置時期	委員数	委員会 開催実績
1	防災減災学術連携委員会	2024年1月25日	22名	4回
2	フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会	2024年2月29日	20名	4回
3	循環経済を活かし自然再興と調和する炭素中立社会への移行に関する検討委員会	2024年5月31日	15名	10回
4	我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会	2024年8月30日	19名	7回
5	学術を核とした地方活性化の促進に関する検討委員会	2025年1月23日	16名	2回

3. 広報委員会

(委員長:磯 博康)

広報委員会

■日本学術会議の広報全般について審議

第1回(2023.11.15) 役員の選任、分科会の設置、学術会議広報の進め方について議論

第2回(2024.6.25) 学術会議広報(ホームページ、パンフレット、動画、学術の動向)について議論

※国内外情報発信強化分科会と合同開催

「学術の動向」編集分科会

■「学術の動向」の企画及び編集に関することを審議

■日本学術協力財団の編集委員会と協力

第1回(2023.12.21) 役員の選任、『学術の動向』の編集について議論

第2回(2024.2.20)、第3回(2024.5.8)、第4回(2024.8.16) 『学術の動向』の編集について議論

第5回(2025.1.27) 『学術の動向』の休刊と今後の情報発信の進め方について議論

国内外情報発信強化分科会

■日本学術会議の活動に係る国内・海外への情報発信に関することを審議

第1回(2024.2.8) 役員の選出、分科会、学術会議広報の進め方について議論

第2回(2024.3.28) 学術会議広報(ホームページ、年次報告、パンフレット、ニュースメール、SNS、SSH等次世代へのリーチ、学術の動向、地域等との連携)について議論

第3回(2024.6.25) ※広報委員会と合同開催

3. 広報委員会

(委員長:磯 博康)

広報活動強化の具体的な取組

学術会議ホームページ

トップページの「スライダー」や「What's new」を活用し、総会声明や国際会議の開催、学術フォーラムや公開シンポジウムの開催などを積極的に発信



「学術の動向」の休刊

2025年1月号をもって休刊。
「学術の動向」がこれまで果たしてきた役割も踏まえつつ、今後の情報発信の在り方について、広報委員会を中心に検討予定



※日本学術協力財団発行、日本学術会議編集協力

動画・SNSによる情報発信



ストーリー性のある会長メッセージ動画
⇒併せて、学術会議X(旧Twitter)でも発信

日本学術会議パンフレット・リーフレット(第26期)



パンフレット



リーフレット

国民向けにわかりやすく学術会議の活動・歴史・組織について紹介

パンフレット及びリーフレットは、SSH指定校(スーパーサイエンスハイスクール)にも、イベント等の案内とともに送付

(今後も引き続き情報提供を行う予定)

※併せて、英語版パンフレットも作成

4. 科学的助言等対応委員会

(委員長:磯 博康)

■任 務

- ・ 部、委員会、分科会又は若手アカデミーから申し出のあった検討課題について助言
- ・ 勧告、答申、要望、声明、提言又は回答の案を査読
- ・ 見解の案を審議、承認
- ・ 部、委員会(分野別委員会を除く)又は若手アカデミーが作成する報告の案を審議、承認
- ・ 勧告、要望、声明、提言又は見解に関する事後的な評価の報告を受ける

■会議開催状況

第1回(2024.1.31) 役員の選任、審議の進め方等について

※このほか、懇談会を2回開催

※個別の意思の表出案件に関する助言、査読、承認等手続きは、随時実施

4. 科学的助言等対応委員会

(委員長:磯 博康)

■ 意思の表出の質の確保を図るため、第25期から幹事会の下に設置

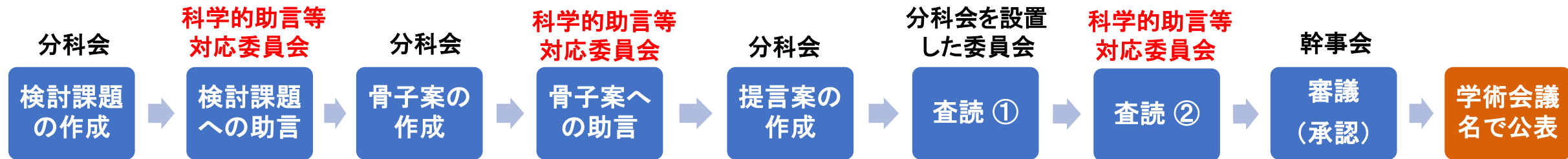
1. 意思の表出の種類(全8種類)

- ① 政府からの諮問に対する「**答申**」
- ② 関係機関からの審議依頼に対する「**回答**」
- ③ 政府に実現を強く勧める「**勧告**」
- ④ 政府や関係機関等実現を望む「**要望**」
- ⑤ 政府や関係機関、広く社会に向けて意見を表明する「**声明**」
- ⑥ 政府や関係機関、広く社会に向けて、総合的・俯瞰的な見地から提案する「**提言**」
- ⑦ 政府や関係機関、広く社会に向けて、専門的な見地からの提案や意見の提示を分科会名等で行う「**見解**」
- ⑧ 審議の結果を分科会名等で発表する「**報告**」

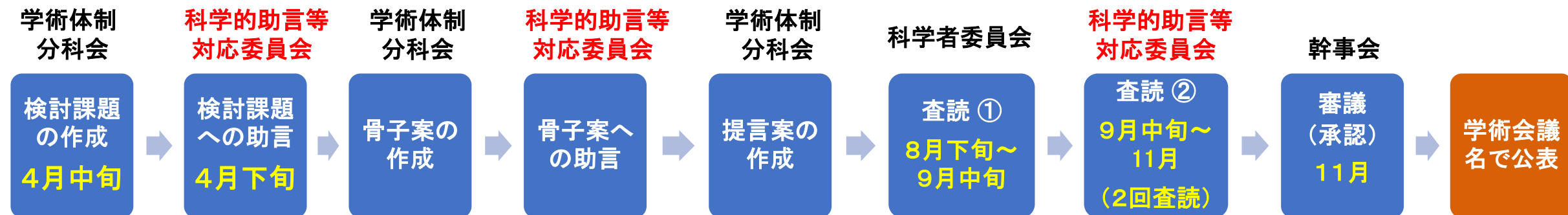
4. 科学的助言等対応委員会

(委員長:磯 博康)

2. 「提言」案の査読



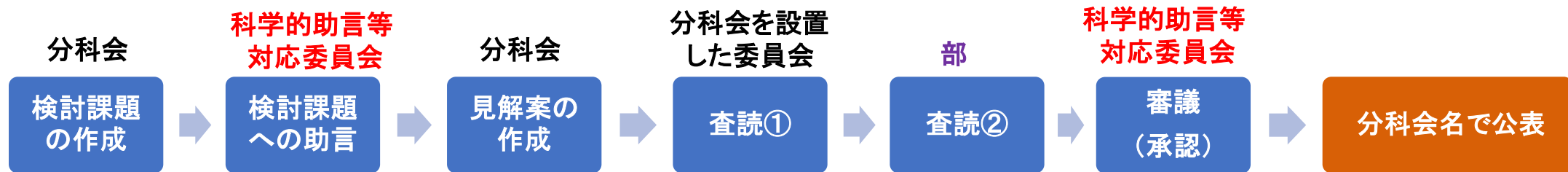
【具体例】2024年11月に「第7期科学技術・イノベーション基本計画に向けての提言」を公表した科学者委員会学術体制分科会の場合



4. 科学的助言等対応委員会

(委員長:磯 博康)

3. 「**見解**」案の審議(承認)



4. 「**報告**」案の検討課題への助言



4. 科学的助言等対応委員会

(委員長:磯 博康)

本委員会で申出書を受け付けた意思の表出件数について(2025年3月末現在)

(注)・意思の表出の種類、表題等は、作成手続の過程で変わり得る。申出書で「見解又は報告」とあるものは、便宜上「見解」に分類した。
・作成分科会等が複数連名の案件は、便宜上、主たる窓口となっている分科会等に分類した。

	提言	見解	報告	計
機能別委員会	4			4
分野別委員会	6	10	4	20
第一部		3	1	4
第二部	2	5	3	10
第三部	4	2		6
部附置分科会				
第一部附置分科会				
第二部附置分科会				
第三部附置分科会				
課題別委員会	4			4
若手アカデミー		2		2
計	14	12	4	30

4. 科学的助言等対応委員会

(委員長:磯 博康)

本委員会で申出書を受け付けた意思の表出一覧(2025年3月末現在)

※意思の表出の種類は、原則申し出ベースのものである。また、意思の表出の種類、表題等は、作成手続の過程で変わり得る。

- 提言「第7期科学技術・イノベーション基本計画に向けての提言」(科学者委員会学術体制分科会) ※2024年11月28日公表
- 提言「国民の健康維持・増進に資する食品制度に関する提案(仮題)」
(食料科学委員会・農学委員会合同食の安全分科会、食料科学委員会・基礎医学委員会合同獣医学分科会、食料科学委員会・農学委員会合同農芸化学分科会、薬学委員会・食料科学委員会・基礎医学委員会合同毒性学分科会、健康・生活科学委員会パブリックヘルス科学分科会)
- 提言「生成AIを受容・活用する社会の実現に向けて」(情報学委員会) ※2025年2月27日公表
- 提言「量子未来社会の健全な発展へ向けた課題と展望(仮題)」(情報学委員会)
- 見解「脳科学研究とその臨床応用に関わる倫理的課題について(仮題)」
(基礎医学委員会神経科学分科会、臨床医学委員会脳とこころ分科会、臨床医学委員会移植・再生医療分科会)
- 提言「教育データの利活用のさらなる促進に向けて」(情報学委員会・心理学・教育学委員会合同教育データ利活用分科会)
- 報告「DNA親子鑑定の実用化がもたらす家族間の揺らぎと法的・社会的課題」(臨床医学委員会臨床ゲノム医学分科会)
- 提言「我が国の学術の発展・研究力強化の在り方(仮題)」(我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会)
- 見解「2040年の科学・学術と社会を見据えていま取り組むべき課題一フォローアップ(仮題)」(若手アカデミー)
- 見解「学術とスタートアップの両輪での推進に向けて(仮題)」(若手アカデミー)
- 見解「女性の政治参画を進めるための制度改革と環境整備について」
(政治学委員会民主主義の深化と退行に関する比較政治分科会、法学委員会ジェンダー法分科会)

4. 科学的助言等対応委員会

(委員長:磯 博康)

- 報告「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準 薬学分野」(薬学委員会薬学教育参照基準検討分科会)
- 提言「研究の活性化へ向けた研究評価の具体的な改善方策(仮題)」(科学者委員会研究評価分科会)
- 提言「気候危機に対処するための産官学民の総力の結集ー循環経済を活かし自然再興と調和する炭素中立社会への転換ー(仮題)」(循環経済を活かし自然再興と調和する炭素中立社会への移行に関する検討委員会)
- 提言「壊滅的災害発生が想定されるメガシティの防災力強化に向けた科学技術イノベーション」(土木工学・建築学委員会IRDR分科会)
- 提言「能登半島地震・豪雨災害の教訓に基づく南海トラフ巨大地震等における地域広域災害への備え(仮題)」(防災減災学術連携委員会)
- 提言「社会と学術界におけるジェンダー平等・公正の実現を目指して」(科学者委員会ジェンダー・エクイティ分科会(第6次男女共同参画基本計画小分科会))
- 提言「差別のない社会を目指して～包括的反差別法の制定に向けた提言～」(科学者委員会ジェンダー・エクイティ分科会(包括的反差別法小分科会))
- 見解「復興アーカイブと社会的モニタリングの機能強化を目指して(仮題)」(社会学委員会災害を克服する地域社会と社会的モニタリング検討分科会)
- 見解「新たな音響学の学術領域の創成とそれを推進するコンソーシアムの創設に向けて」(総合工学委員会・機械工学委員会合同計算科学シミュレーションと工学設計分科会)
- 報告「高等学校の生物教育における重要用語の選定について(再改訂)」(基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同生物科学分科会)

4. 科学的助言等対応委員会

(委員長:磯 博康)

- 見解「情報教育課程の設計指針—初等教育から高等教育まで(改訂)」(情報学委員会情報学教育分科会)
- 見解「AI活用時代における経営教育の変革」(経営学委員会AI時代に備える経営人材育成に関する分科会)
- 見解「現代の新生児医療における倫理的意思決定基準および代理意思決定の考え方」(臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同出生・発達分科会)
- 見解「ケア共同社会の実現に向けたケアサイエンスの展望(仮題)」(健康・生活科学委員会・臨床医学委員会合同共生社会に向けたケアサイエンス分科会)
- 見解「人口減少・人口偏在社会に求められるヘルスケア人材」(健康・生活科学委員会ヘルスケア人材共創に向けた看護学分科会)
- 提言「学術を核とした地方活性化の促進(仮題)」(学術を核とした地方活性化の促進に関する検討委員会)
- 見解又は報告「高齢者の健康と生活に与える環境の影響:学際領域の研究成果の融合(仮題)」(健康・生活科学委員会高齢者の健康・生活分科会)
- 提言「Soil Health (土壌の健康) : 国民的理解と持続可能な管理のイノベーションの推進」 (農学委員会土壌科学分科会、農学委員会・食料科学委員会合同IUSS分科会、農学委員会植物保護科学分科会)
- 報告「現代社会における多様なリスクに対する法的・政策的対応(仮題)」 (法学委員会リスク社会と法分科会、環境学委員会環境政策・環境計画分科会)

4. 科学的助言等対応委員会

(委員長:磯 博康)

意思の表出の作成に関して、各委員会・分科会へのお願い

1 意思の表出を行う時期について

今期3年間における意思の表出は、原則、今期末の9カ月前（2025年12月末）までを目途に発出できるように努めていただきたい。これに間に合わない場合でも遅くとも今期末の6カ月前（2026年3月末）までに発出していただきたい。

今期の最後の1年間は、原則、各関係機関等への周知、シンポジウム、フォローアップ等に充てていただきたい。

以上を確実に実行するために、余裕を持ったスケジュール設定、スケジュール管理をお願いしたい。

2 各委員会・部等における査読について

意思の表出手続きに関して、各委員会・部等で行う「査読」手続きを迅速に行うために、意思の表出の案文が出来上がってから査読者を決めるのではなく、前もって査読者を決め、査読手続きが査読者の人選等で滞ることがないようにしていただきたい。

4. 科学的助言等対応委員会

(委員長:磯 博康)

■2025年12月末までに「**提言**」を公表する場合、スケジュールを逆算すると

短縮可能

2025年12月	幹事会が「提言案」を 審議 （承認後、公表）
10月～12月	科学的助言等対応委員会が「提言案」を 査読② ※1
8月～10月	分野別委員会が「提言案」を 査読① ※1
7月中	科学的助言等対応委員会が「 提言の骨子案 」に 助言 ※2
6月中	分科会は、科学的助言等対応委員会に「 提言の骨子案 」を提出
5月中	科学的助言等対応委員会が「 申出書 」に 助言 ※2
2025年4月中	分科会は、関係する委員会や分科会・部と事前調整の上、科学的助言等対応委員会に検討課題等を提出（「 申出書 」） ※2

※1 査読者の速やかな人選や、査読意見を踏まえた修正案の速やかな提出により、**査読期間短縮の可能性**

※2 「**申出書**」に「**提言の骨子案**」が添付されている場合はまとめて助言を行うため、**助言期間短縮の可能性**

4. 科学的助言等対応委員会

(委員長:磯 博康)

■2025年12月末までに「**見解**」を公表する場合、スケジュールを**逆算**すると

2025年10月～12月 科学的助言等対応委員会が「見解案」を**審議** ※1 (承認後、公表)

8月～10月 部の役員会が「見解案」を**査読②** ※2

6月～8月 分野別委員会が「見解案」を**査読①** ※2

5月中 科学的助言等対応委員会が「**申出書**」に**助言**

2025年 4月中 分科会は、関係する委員会や分科会・部と事前調整の上、科学的助言等対応委員会に検討課題等を提出(「申出書」)

※1 審議結果を踏まえた修正案の速やかな提出により、**審議期間短縮の可能性**

※2 査読者の速やかな人選や、査読意見を踏まえた修正案の速やかな提出により、**査読期間短縮の可能性**

4. 科学的助言等対応委員会

(委員長:磯 博康)

■2025年12月末までに「報告」を公表する場合、スケジュールを逆算すると

2025年10月～12月 部の役員会が「報告案」を審議 ※1 (承認後、公表)

8月～10月 分野別委員会が「報告案」を査読 ※2

7月中 科学的助言等対応委員会が「申出書」に助言

2025年 6月中 分科会は、関係する委員会や分科会・部と事前調整の上、科学的助言等対応委員会に検討課題等を提出(「申出書」)

※1 審議結果を踏まえた修正案の速やかな提出により、審議期間短縮の可能性

※2 査読者の速やかな人選や、査読意見を踏まえた修正案の速やかな提出により、査読期間短縮の可能性

日本学術会議 国際活動報告 (2024年10月～2025年3月)



2025年4月14日 第194回総会
第26期 日本学術会議副会長(国際活動担当)
日比谷 潤子



第26期の活動方針

日本学術会議のより良い役割発揮に向けた検討や日本学術会議の国際戦略を踏まえ、国際活動のさらなる発展を目指す

1. 地球規模課題等への対応について、各国アカデミーや国際学術団体等との交流や連携強化
 - ✓ 国際学術会議(ISC)への積極的参画や、インターアカデミーパートナーシップ(IAP)等加入国際学術団体等に対するより一層の貢献
 - ✓ Gサイエンス学術会議(S7)やサイエンス20(S20)等における各国アカデミーとの連携強化
 - ✓ 次世代科学者の参加機会の創出・拡大
 - ✓ 継続的な国際活動の実施の検討
2. アジア地域におけるリーダーシップの発揮
 - ✓ アジア学術会議(SCA)の運営・開催等
3. 国内外に向けた情報発信の強化
 - ✓ 日本学術会議の国際活動、その成果のわかりやすい発信



国際活動の全体像

国際学術団体等への加入・貢献

国際学術会議 (ISC)
International Science
Council

InterAcademy Partnership
(IAP)

学術領域別・地域別
国際学術団体

役員・代表の派遣

各アカデミー

Gサイエンス
学術会議(S7)

サイエンス20
(S20)

連携と
交流



事務局

主催・共同主催

アジア学術会議(SCA)
の運営・開催

Future Earth(FE)国際
事務局の活動支援

国際会議・シンポジウムの開催



報告内容

1. 各国アカデミーとの連携・交流

- ① Gサイエンス学術会議(S7)、②サイエンス20 (S20)、③二国間交流、
④世界科学フォーラム(WSF)

2. 加入国際学術団体等への貢献

- ①代表派遣、②国際学術会議(ISC)、
③インターアカデミーパートナーシップ(IAP)

3. 国際会議の共同主催及び後援

4. 国際会議の主催(持続会議)

5. アジア学術会議(SCA)の運営

6. フューチャー・アースの国際的展開

7. 国内外に向けた情報発信



1. 各国アカデミーとの連携・交流

• ①Gサイエンス学術会議（Science7（S7））

- ✓ G7サミット参加各国アカデミーがG7サミットに向けた科学的な政策提言を作成し、共同声明として公表。
- ✓ 共同声明案について議論するため、2025年2月に分科会を開催。

Gサイエンス学術会議2025について

開催概要

日時 : 2025年5月6日（火）～5月8日（木）
場所 : カナダ（オタワ）
主催 : カナダ王立協会科学アカデミー
（G7サミットは6月15日から17日にかけて開催予定。）

テーマ

I Advanced Technologies and Data Security
（先端技術とデータ・セキュリティ）

II Climate Action and Health Resilience
（気候変動対策と健康レジリエンス）

III Sustainable Migration
（持続可能な移住）

Gサイエンス学術会議分科会 構成員		担当 テーマ
日比谷 潤子 （委員長）	日本学術会議副会長（国際担当）、国際基督教大学名誉教授	—
光石 衛	日本学術会議会長、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構理事、東京大学名誉教授	—
佐古 和恵	早稲田大学理工学術院教授	I
渡辺 知保	長崎大学大学院プラネタリーヘルス学環教授	II
竹沢 泰子	関西外国語大学国際文化研究所長	III



1. 各国アカデミーとの連携・交流

● ②サイエンス20 (Science20 (S20))

- ✓ G20サミット参加国・地域のアカデミーがG20サミットに向けた科学的な政策提言を作成し、共同声明として公表。
- ✓ 2025年2月25日～27日に南アフリカ(プレトリア)にて開催された発足会合に事務局が参加。

サイエンス20 (S20) 2025について

開催概要

日時 : 2025年9月22日 (月)、23日 (火)
場所 : 南アフリカ
主催 : 南アフリカ科学アカデミー
(G20サミットは11月22日、23日に開催予定。)

全体テーマ

Climate Change and Well-being

: 気候変動とウェルビーイング

(国際委員会及び関係分科会に共同声明案への意見照会予定。)



発足会合の様様

1. 各国アカデミーとの連携・交流

● ③二国間交流

- ✓ 2025年3月、英国王立協会とのネットゼロに関するワークショップ（第2回）を開催。
- ✓ 2050年ネットゼロ達成に向けた水素利用拡大及び二酸化炭素回収・貯蔵・有効利用の技術実装の課題と対策について、意見交換を実施。

開催概要

日 時： 2025年3月18日（火）、19日（水） 9:00-17:30

場 所： 日本学術会議構内

出席者：（日学側）光石会長、日比谷副会長、三枝副会長、北川第三部副部長他14名
（英国王立協会）Andy Woods教授他8名



ワークショップの様子



出席者の集合写真

1. 各国アカデミーとの連携・交流

④世界科学フォーラム(World Science Forum: WSF)

- ✓ 科学者や政策決定者、民間部門の代表者が、科学の役割と貢献について議論し、政策提言を発信する場として、2003年から隔年で開催。

開催概要

日時 : 2024年11月20日(水)～23日(土)

場所 : ハンガリー(ブダペスト)

テーマ : The science and policy interface at the time of global transformation
: 地球規模の変革の時代における
科学と政策のインターフェース

<主な活動>

- ・ 日比谷副会長が委員としてWSF運営委員会に参加し、プログラム案の審議に参加。
- ・ プレナリーセッションには、梶田隆章連携会員(前会長)や小池俊雄元第三部会員ほかが現地で参加。

次回は、2026年にインドネシアで開催予定。



運営委員会における議論の様子



ハンガリー国会議事堂における閉会式

2. 加入国際学術団体等への貢献

①代表派遣

- ✓ 日本学術会議が加入する42の国際学術団体等に対し代表者を派遣
- ✓ 国際学術団体における国際基準・ルール策定などの議論に参画することで、日本の学術のプレゼンスの向上に貢献
- ✓ 代表派遣実績(2024年度)
27会議に27名を派遣
(現地24会議24名、オンライン3会議3名)
- ✓ 代表派遣実施状況(2025年度)
30会議31名の派遣計画を決定



釜山(韓国)で開催された第5回IUGS-IGC総会等(2024(令和6)年8月)にて、派遣者の北里洋連携会員(特任)が8年間勤めた財務担当理事の交代式。



2. 加入国際学術団体等への貢献

・ ②国際学術会議(ISC)

✓ 組織運営への貢献

ISCの組織運営に、6名の日本学術会議関係者が参画。

常設委員会「科学の自由と責任の委員会」 委員
(任期：2022年～2025年)

隠岐 さや香 連携会員

アジア・太平洋拠点アドバイザリーボード 委員
(任期：2023年～2026年)

氷見山 幸夫 日本学術会議元会員

副会長

(任期：2021年～2026年)

小谷 元子 連携会員

白波瀬 佐和子 第一部会員

太陽地球系物理学科学委員会 会長
(任期：2023年～2027年)

塩川 和夫 連携会員

災害リスク統合研究科学委員会 委員
(任期：2024年～2027年)

寶 馨 連携会員

✓ ジョイント・イベントの開催

2024年11月25日、日本学術会議にてISC理事の
ポールトン博士等を招いて「現代の科学～公共財
としての科学とオープンサイエンスによる変革の可
能性」に関する特別講演を開催し、20名が参加。



ポールトン博士及び講演参加者の集合写真

● ②国際学術会議(ISC)

✓ 第3回ISC総会への参加

全体概要

- ISCの会員が一堂に会し、4年に一度開催。
- 27の国際学術団体、約80カ国・地域のナショナルアカデミー等から約400名が参加。日本学術会議からは光石会長が参加し、ISCと日本学術会議との連携について紹介(次頁参照)。
- 次回総会(2028年10月)に先立ち、中間会合を2026年10月に中国(北京)で開催予定。

開催概要

日時： 2025年1月29日(水)、30日(木)

場所： オマーン(マスカット)



開会挨拶の様様

プログラム

1月29日 14:00-18:00	1月30日 9:00-17:30
開会挨拶	2025年-2028年の戦略プラン案の説明等
アジェンダ採択	規約改定説明
前回総会の報告書採択	中南米、アジア大洋州、アフリカのリージョナル・フォーカル・ポイントからの報告
決議委員会任命	財務報告、会費のインフレ調整、監査役任命
理事会メンバー紹介	決議事項電子投票
会長及びCEOからの報告	今後の予定
各担当役員からの報告	閉会挨拶

● 国際学術会議(ISC) ②

✓ 第3回ISC総会への参加

(参考) カテゴリー2会員(ナショナル・アカデミー等) 会合(1月29日 9:00-10:45)

- 光石会長から、ISCプラットフォーム会議について紹介。
- 当会議が、ISC加盟の国際学術団体に関与している日本人研究者や日本学術会議メンバーとの情報共有・連携の場として機能している点を説明。
- 総会の閉会挨拶では、ISC会長が当会議を加盟国会員間の連携促進のグッド・プラクティスとして紹介。



グラックマンISC会長と光石会長



カテゴリー2会員会合登壇者の記念写真



ダイクラーフISC次期会長と光石会長

2. 加入国際学術団体等への貢献

• ③インターアカデミーパートナーシップ (InterAcademy Partnership: IAP)

- ✓ 日本学術会議は、声明作成のためのワーキンググループへ専門家を派遣する等、適宜協力。
- ✓ コミュニケーション・教育・アウトリーチに関する委員会には日比谷副会長が参加(任期:2022年～2025年)。
- ✓ 都市の健康(Urban Health)に関するワーキンググループ委員に中村桂子連携会員が就任(2025年1月～)。
- ✓ 2025年12月8日～11日にかけて、エジプト(カイロ)にてIAP総会が開催予定。
- ✓ 2024年10月30日、IAPのアジア・オセアニア地域ネットワークであるアジア科学アカデミー・科学協会連合(AASSA)第6回総会において、佐竹健治会員(第三部)がAASSA理事に就任。



3. 国際会議の共同主催及び後援

● 共同主催国際会議の運営

- ✓ 令和8年度共同主催国際会議候補として「第41回世界獣医師会大会」など6件を幹事会決定。
- ✓ 令和7年度共同主催国際会議として「国際生殖医学会2025」をはじめ、7件の会議開催に向け準備中。

● 国際学会議の後援

- ✓ 「第7回革新的エネルギー材料・プロセス国際会議」の後援を決定。

● その他

- ✓ 2025年1月に、日本学会議国際委員会と日本政府観光局(JNTO)の共同共催で、講演会「国際会議主催者セミナー」を開催。光石会長(MICEアンバサダー)及び日比谷副会長が主催者挨拶等で登壇。その他、国際会議誘致・開催に係る日本学会議の支援内容について紹介。



4. 国際会議の主催

● 「持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議」(持続会議)

- ✓ 2003年以降、持続可能な社会のための科学と技術に関する課題を議論するため、国際会議を毎年主催。

開催概要

日時 : 2025年2月3日(月) 13:00~17:30

場所 : ハイブリッド (日本学術会議講堂、オンライン)

テーマ : 持続可能なイノベーション創出のためのエコシステム
～2040年の科学・学術と社会を見据えて～

参加者 : **合計 573名**

会場参加

計97名 (うち、子ども 2名)

オンライン参加

計476名 (最大同時視聴数 : 346名)

日本、オーストラリア、カナダ、中国、インド、韓国、シンガポール他、25カ国・地域から参加

※ 本会議初の試みとして、日本学術会議庁舎内に託児所及びキッズスペースを設置 (託児所利用は6名、キッズスペース利用は2名)。



来賓挨拶で登壇する今井絵理子内閣府大臣政務官



登壇者等の集合写真

5. アジア学術会議(SCA)の運営



● 第23回 アジア学術会議(バングラデシュ会合)

- ✓ 2024年11月30日(土)～12月2日(月)にかけて、日本学術会議が事務局を務めるアジア学術会議の第23回年次会合が、バングラデシュ科学アカデミーの主催により開催され、“Fourth Industrial Revolution and Future Society”(第4次産業革命と未来社会)をテーマに、10カ国・地域から300名以上が参加。
- ✓ 日本学術会議からは、光石会長を含め5名の会員・連携会員が代表派遣者として参加。光石会長から”Future Strategic Plan 2023”の内容に即して、日本学術会議が発出した提言等との整合性・相補性を紹介。加盟国アカデミーと共有。
- ✓ 次回はパキスタン科学アカデミーの主催により、食料安全保障等をテーマに、2025年11月にパキスタン(イスラマバード)／オンラインで開催予定。

日本学術会議からの代表派遣者

臼井 恵美子(オンライン参加)
(第一部会員、一橋大学経済研究所教授)

光石 衛(オンライン参加)
(第三部会員、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構理事／東京大学名誉教授)

大倉 典子(オンライン参加)
(連携会員、中央大学研究開発機構教授／芝浦工業大学名誉教授)

澁澤 栄
(連携会員、東京農工大学卓越リーダー養成機構特任教授)

門田 有希
(連携会員、岡山大学学術研究院環境生命自然科学学域准教授)



パネル・ディスカッションにオンライン登壇する光石会長

6. フューチャー・アースの国際的展開

日本学術会議は、2021年9月に発足した国際事務局(9か国・地域にて構成)ハブの一つである日本ハブの主要支持機関として機能

- ✓ 「令和7年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣の基本方針」及び「令和7年度フューチャー・アースに関する国際会議等への外国人招へいの基本方針」を決定し、令和7年度(2025年度)の活動計画を策定。



futureearth
research for global sustainability

「第4回フューチャー・アース総会」

7. 国内外に向けた情報発信

- ✓ 主な国際活動の成果の発信（HP及びX（旧Twitter）、ニュースメール）

2024年 11月 : 世界科学フォーラム（WSF）2024

12月 : 第23回アジア学術会議（バングラデシュ会合）

2025年 1月 : 第3回国際学術会議（ISC）総会

2月 : 持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2024

この他、国際学術団体や各国アカデミー等が有する広報ツールを利活用。

